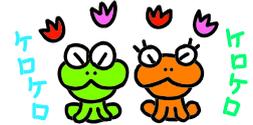


DIニュース



保存

NO.136 発行日 2012.7.25

第二中央病院薬剤課

今月のトピック

運転してはいけない薬

今年4月、京都市東山区の祇園で軽ワゴン車が歩行者を次々とはね、18人が死傷した事故で、軽ワゴン車を運転し死亡した容疑者の血液から、抗てんかん薬の成分が検出されました。てんかんは医師の指示どおりに規則正しく服薬していれば発作はほぼ抑えられますが、1回飲み忘れただけで発作を起こすこともあります。この事例では薬の服用状況が事故当時の体調を左右していた可能性があり調査中です。一方、薬の副作用で意識消失や突発性睡眠などをおこし事故にいたるケースがあります。パーキンソン病治療薬の**ビ・シフロール**や**レキップ**が有名です。これらの薬は警告欄に自動車の運転をさせないように記載されています。最近では**チャンピックス**や**リリカ**でも**意識消失**を起こして交通事故の危険性があると指摘されています。

<PMDAに掲載されている交通事故を起こす可能性のある主な医薬品の副作用件数>

ビ・シフロール

年度	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004
交通事故	1	3	2	8	23	1		1
意識消失		1		1				
失神							1	
突発性睡眠	1	4	6	9	26	2	3	3
睡眠発作			3	2		1		

チャンピックス

年度	2011	2010	2009	2008
交通事故	1			
意識消失	10	3	1	4
失神	2	1		

リリカ

年度	2011	2010
交通事故	1	
意識消失	13	15
失神	3	

上の表をみると、突発性睡眠と交通事故の件数には相関性がありそうです。

意識消失と交通事故の件数の相関性ははっきりしませんが、添付文書には、チャンピックス、リリカいずれも「自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。」となっています。

当院では、「突発性睡眠または意識消失により運転をしないこと」と添付文書に記載されている薬剤に限って、処方オーダー時に患者説明の確認が出るようになりました。

これらの薬剤は、運転前に服用しないだけでなく、服用期間を通して運転してはいけない薬剤です。

<運転等に影響を与えるおもな薬剤一覧>

薬効分類	運転等の障害となる作用	薬剤名
消炎鎮痛剤	眠気、めまい、ふらつき感など	インドメタシン等
疼痛治療剤	意識消失、傾眠	リリカ、トラムセット等
抗うつ剤	意識消失	デプロメール等
抗ヒスタミン剤	眠気	クロルフェニラミン等
鎮痙・鎮痛剤	視調節障害、眠気、めまい	セスデン、ブスコパン等
散瞳点眼剤	散瞳、調節麻痺	ミドリンP、ミドリンM
睡眠薬・抗不安薬	翌朝以後にも残る眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下	ハルシオン、
抗てんかん薬	眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下	テグレトール等
抗ガン剤	アルコール含有製剤（運転禁止）	タキソール等
抗パーキンソン病薬	前兆のない突発性睡眠、傾眠、注意力・集中力・反射機能などの低下、ふらつき、めまい、起立性低血圧	ピ・シフロール、レキップ、マドパー、ネオドパストン等
抗真菌剤	羞明、霧視、視覚障害など	ポリコナゾール
禁煙補助薬	めまい、傾眠、意識障害（意識レベルの低下、意識消失）など	チャンピックス

突発性睡眠・・・突然睡眠におちいる

傾眠（けいみん）・・・軽い刺激で目を覚ますが、刺激しないとすぐ眠ってしまう状態

意識消失・・・突然、気を失う

視調節障害・・・遠くを見る、近くを見ると調節がうまくいかない

霧視（むし）・・・かすみ目

羞明（しゅうめい）・・・光によって強く刺激を受け、正常なときよりまぶしく感じる



新規採用薬
紹介

エルカルチン錠



エルカルチンは組織内の有害なプロピオニル基を排泄し、ミトコンドリア機能を保護してその代謝を賦活させる薬剤です。1990年に「下記疾患におけるカルニチン欠乏の改善・プロピオン酸血症、メチルマロン酸血症」として承認されました。2011年3月、公知申請により効能・効果が「カルニチン欠乏症」と変更され透析患者さんにも使えるようになりました。透析中のこむら返りや低血圧の改善、エリスロポエチン（EPO）大量投与にも関わらずEPOに反応しない貧血等の改善が期待されます。また、バルプロ酸投与中の高アンモニア血症にも有効といわれています

副作用として、嘔気、下痢などの消化器症状がありますが一般に軽度で、リスク/ベネフィット比は良好と考えられています。

閲覧後、DIニュースのファイルに保管してください。